

今後の課題

- ・第2層生活支援コーディネーター※4が包括圏域ごとに配置されたことによる、より地域に密着したニーズや課題把握と、地域のネットワークづくりや地域資源の開拓
- ・多様な主体の参画を促し、話し合いの機会を設けるなど課題解決にむけた協働
- ・コロナ禍のように、集うことが難しい状況下で地域活動をおこなうための工夫や参加促進に向けた取り組み
- ・地域福祉活動への参加に至っていない人のニーズ把握やオンライン会議等、状況に応じたICTの活用促進

3 要援護者の発見と地域における見守り体制の強化

- (1) 地域への情報提供に係る同意確認に継続して取り組むとともに、同意を得られなかった区民への継続した取り組みをおこなう
- (2) 地域へ提供した「西成つながり名簿」の更新時、見守り活動を継続する動機づけとなる取り組みをすすめる
- (3) 地域の実情に応じた効果的な見守り支援の手法について、地域と一緒に検討をおこない、災害時の避難支援にもつながる取り組みをすすめる

主な現状

- ・名簿の更新情報は、定期的に地域に提供し、同意確認の取れない世帯に対し個別対応をおこなうもコロナ禍により停滞している
- ・地域ごとに名簿提供先が異なることや、見守り活動の担い手の固定化により、名簿を活用した活動に様々な問題が生じている
- ・モデル実施として、6地域で「見守りサポーター※5」を採用。見守り相談室の活動を補い、必要に応じて地域へフィードバックし、地域の見守り活動へ引き継がれている
- ・コロナ禍により、地域内の各種活動が止まり、関連した活動や連携も止まり、支援が必要な人を発見する機会が減少している

今後の課題

- ・支援が必要と思われる不同意者の世帯に対するアウトリーチの強化
- ・「西成つながり名簿」を活用した要援護者の地域内での見える化
- ・見守り活動や「西成つながり名簿」の活用を目的とした地域で開催される各種会議への参加
- ・地域へ提供している「西成つながり名簿」の情報の更新と安否確認がセットになった活動の実施
- ・見守り活動と災害時の避難支援がリンクするような仕組みづくり

4 複合的な課題を抱えた人への支援体制の構築

- (1) 複合課題など支援困難事例に対し、的確に対応し課題解決できる仕組みの構築
- (2) 地域における「気づき」と「つながりの場」の活動
- (3) 問題が深刻化する前に対応できる「予防的アプローチ」の実施

主な現状

- ・「つながる場」の開催により、支援者同士の顔が見える関係づくりがすすむとともに、支援の方向性や役割分担を明確にすることで迅速かつ正確な課題整理ができ、出席者の満足度が高い状況にある
- ・「つながる場」の認知度が、専門職の間では定着しつつある
- ・スーパーバイザーの充実が実現

今後の課題

- ・各地域で開催される会議等に参加し、地域の「かけはし」的役割の重要性と「地域福祉計画」の継続した周知活動
- ・見守り相談室等と協力し、「つながる場」や地域ケア会議等に参画してもらえる地域協力者・支援者の拡大
- ・課題を抱える世帯を早期発見するための地域住民の「気づき」に関する周知活動をおこなう。また、福祉専門職から地域の見守り活動につなげることができる窓口（かけはし）の充実
- ・見守り相談室と連携し、支援を要する人の早期発見や地域で孤立しないための仕組みづくり

質問コーナー 2

地域福祉計画で区役所や区社会福祉協議会は何をするの？

地域住民の方々が気づいた地域の心配ごとや困りごとの相談を受けたり、解決に向けた話し合いをおこなったり、地域を支援しつつ一緒に考え協働します。また、「みんなで支え合う地域づくり」のために、西成区地域福祉計画が、地域住民のみなさんに広く解ってもらえるように説明や広報活動に取り組みます。

- ※4 第2層生活支援コーディネーター：生活支援体制整備事業において、地域住民や、関係機関とともに、身近な地域での高齢者の健康づくり、居場所づくりや、困りごとへの助け合いの充実をめざして包括圏域で活動する人
- ※5 見守りサポーター：見守り相談室（区社協）の依頼のもと「西成つながり名簿」の登録情報の確認をおこなう、地域の事情に詳しい人（令和2年から試行実施）